

## note 作品インデックス（作成日順）

---

1\_s\_o の note 作品 全 129 件を作成日順に掲載します。

（第129番追記：2026年4月27日）

## 008. 『思考の技法』におけるシステム学の系譜

---

作成日：2025-05-11     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n172b9019fa1d](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n172b9019fa1d)

ベルタランフィの一般システム論から現代のソフトウェアシステム論に至る系譜を整理。思考の技法がシステム学からどのような知見を継承・発展させているかを論じる。知働化辞典・探求史の基礎資料。

## 009. 哲学の系譜：言語ゲーム・心の哲学・新實在論

---

作成日：2025-05-13     ♥ 7

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n6f6948f6fd13](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n6f6948f6fd13)

ヴィトゲンシュタインの言語ゲームから心の哲学、ガブリエルの新實在論に至る哲学的系譜を辿る。思考の技法における哲学的支柱を体系的に整理した重要論考。知識主導社会の認識論的基盤を提示する。

## 010. 『思考の技法』におけるデザイン学の系譜

---

作成日：2025-05-13     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n57983f7bfbe1](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n57983f7bfbe1)

デザイン学の観点から思考の技法の系譜を辿る。概念創造・問題解決・美的合理性などデザイン思考の諸要素が知働化の実践にどう貢献するかを論じる。創造的思考の方法論的基盤を整理する。

## 011. テクノロジー進化と民主主義の危機

---

作成日：2025-05-14     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n6662214eef0a](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n6662214eef0a)

AI・SNSなどのテクノロジーの急速な進化が民主主義の基盤を揺るがしている現状を論じる。情報操作・格差拡大・権力集中のリスクを指摘し、技術と社会の関係を問い直す。知識社会の倫理的課題を提起。

## 012. アイデンティティより他者性という形相

---

作成日：2025-05-15     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n660f2c273cae](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n660f2c273cae)

自己同一性（アイデンティティ）よりも他者との関係性・差異性が思考や存在の本質であるという哲学的立場を論じる。ガブリエルの新實在論を参照しつつ、個人と社会の関係を再考する視点を提示。

## 013. ペンローズの世界観

---

作成日：2025-05-16     ♥ 5

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n7920a34b4f89](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n7920a34b4f89)

物理学者・数学者ロジャー・ペンローズの思想を紹介。意識・数学的実在・物理世界の三つの世界論を解説し、思考の技法への応用を探る。ペンローズ法（三世界モデル）の理論的基盤を提示する。

## 014. ソフトウェア学のパラダイムシフト史

---

作成日：2025-05-18     ♥ 12

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n00cb318c636d](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n00cb318c636d)

ウォータフォールからアジャイル、そして知働化AIフレームへと続くソフトウェア開発のパラダイムシフトを歴史的に辿る。各時代の思考様式と方法論の変遷を整理した重要な論考。現代のAI時代の開発観を問い直す。

## 015. 抽象化とは？

---

作成日：2025-05-19     ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n888bacf728eb](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n888bacf728eb)

思考の根本操作としての「抽象化」を哲学・情報科学・認知科学の観点から論じる。具体から本質を取り出すプロセスと、それが知識形成・システム設計においてなぜ重要かを解説。思考の技法の基本概念の一つ。

## 016. 意味論的転回

---

作成日：2025-05-21     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n536d8d698263](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n536d8d698263)

現代思想における「意味論的転回」を解説。言語・記号の意味が哲学・認知科学・AIの中心課題となった経緯と含意を論じる。知識の表現と意味理解が人間知性の核心であることを示す論考。

## 017. 組織における目的の表明

---

作成日：2025-05-22     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n6f8fb909a8a9](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n6f8fb909a8a9)

組織が目的（パーパス）を明確に表明することの意義と方法を論じる。目的なき組織は混迷に陥るという著者の核心的主張を具体的に展開する。イノベーションの起点としての目的設計論。

## 018. 実感としてのパラダイムシフト

---

作成日：2025-05-23     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nd22f81eb1b76](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nd22f81eb1b76)

パラダイムシフトを抽象論ではなく実体験・実感として捉え直す論考。AI・組織・社会の変革が身近で起きているという現場感覚から思考を深める。変化の波を実感として受け止め行動につなげる視点を提示。

## 019. 個人の能力と発達

---

作成日：2025-05-24     ♥ 5

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/na0c34680dd60](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/na0c34680dd60)

個人の知的能力がどのように発達するかを探る。選別か成長か、という永遠の人材論の問いに対し、解像度・真摯さ・尊厳という軸で捉える独自の発達観を提示する。人財育成の実践的示唆に富む。

## 020. ドラッカーの著作

---

作成日：2025-05-25     ♥ 0

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nd9a9a5d62478](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nd9a9a5d62478)

マネジメントの祖ドラッカーの主要著作を紹介・解説。思考の技法への影響を踏まえつつ、ドラッカーの知見が現代の知識主導社会にも有効であることを示す。組織・マネジメントを学ぶ基本文献案内。

## 021. ガブリエルの著作

---

作成日：2025-05-26     ♥ 6

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nc158438083eb](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nc158438083eb)

新実在論・新実存主義の哲学者マルクス・ガブリエルの著作を紹介・解説する。「考えるという感覚」「なぜ世界は存在しないのか」など主要著作の要点を整理。思考の技法が依拠する哲学的基盤の入門案内。

## 022. オープンダイアログという実践的手法

---

作成日：2025-05-27     ♥ 0

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n383660906676](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n383660906676)

フィンランド発の対話的精神科医療「オープンダイアログ」を紹介。個人の内面と社会をつなぐ対話の手法として思考の技法への応用可能性を探る。コミュニケーションの質を根本から変える実践知。

## 023. 心理 語りえぬもの

---

作成日：2025-05-28     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n3f3c6bf5298c](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n3f3c6bf5298c)

ヴィトゲンシュタインの「語りえぬものについては沈黙しなければならない」という命題を手がかりに、人間の内面・心理が言語化できない領域を持つことを論じる。精神分析的知見と哲学を架橋する考察。

## 024. 複雑性の諸概念と対処

---

作成日：2025-05-29     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n9ee645634f6e](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n9ee645634f6e)

ソフトウェア・システム・組織における複雑性の多様な種類（本質的・付随的）を整理し、それぞれへの対処法を論じる。F.ブルックスの「人月の神話」を参照しつつ、現代システムの複雑性論を展開する。

## 025. ベルガンディと思考の技法との比較

---

作成日：2025-05-30     ♥ 0

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n9ee139942bb4](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n9ee139942bb4)

Roberto Verganti のデザインドリブン・イノベーション論と思考の技法を比較考察。意味の創造とイノベーションの関係を論じ、両者の共通点と相違点を明らかにする。デザイン思考の理論的深化に寄与。

## 026. 『思考の技法』の世界観：実行可能知識

---

作成日：2025-06-01     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n580e279b6b65](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n580e279b6b65)

「実行可能知識」という概念を中心に思考の技法の世界観を解説する。理論だけでなく実際に使える知識・技法として設計されている点を強調。AVモデルとの接続を図りながら実践的知識観を提示。

## 027. 缶詰会という試み

---

作成日：2025-06-02     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nb2a87b33833c](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nb2a87b33833c)

参加者が集中して議論・執筆・探求をする「缶詰会」という実践の場を紹介・報告する。知的コミュニティ形成の試みとして、対話と協創の場の設け方を具体的に描く。知働化の実践例を示す記録。

## 028. 東大話法というハラスメント

---

作成日：2025-06-03     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n685b8ad323aa](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n685b8ad323aa)

官僚的・権威主義的な言語操作「東大話法」がコミュニケーションをハラスメント化する問題を論じる。言語ゲームの観点から権力と言語の関係を分析し、自由な対話の阻害要因を指摘する。

## 029. ヴィトゲンシュタインの著作

---

作成日：2025-06-04     ♥ 12

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nd18d52190399](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nd18d52190399)

ルードウィッヒ・ヴィトゲンシュタインの主要著作（論理哲学論考・哲学探究等）を紹介・解説する。思考の技法が依拠する言語哲学の核心を概説し、言語ゲーム概念が現代思想に与えた影響を整理する。

## 030. X = ソフトウェア化

---

作成日：2025-06-05     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n1fd7417e9517](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n1fd7417e9517)

あらゆる産業・社会システムが「ソフトウェア化」されていくパラダイムシフトを論じる。マーク・アンドリーセンの「ソフトウェアが世界を飲み込む」論を踏まえ、知働化社会における変革の本質を提示。

### 031. 知働化をテーマとするシンポジウム企画

---

作成日：2025-06-06     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n9a863b5ec717](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n9a863b5ec717)

知働化をテーマとするシンポジウムの企画概要を紹介する。HIとAI、組織とシステム、哲学と実践を横断するテーマ設定の意図を解説。知識コミュニティ形成に向けた実践的取り組みの記録。

### 032. 〔対談〕人働説から知働説へ

---

作成日：2025-06-07     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nf53043ce4148](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nf53043ce4148)

「人働説から知働説へ」をテーマにした対談。労働と知識の関係、これからの組織や個人の在り方を専門家と議論する。理論的考察を実践的な文脈で検証する対話形式の論考。

### 033. 〔対談〕AI領域で起こっていること 第1回

---

作成日：2025-06-08     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n47be6c84c581](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n47be6c84c581)

AI領域の急速な変化について専門家と対談する第1回。生成AIの登場がもたらす社会・産業・思考への影響を議論する。現場で起きている変化をリアルに捉え思考の技法の文脈に位置づける。

### 034. 〔対談〕AI領域で起こっていること 第2回

---

作成日：2025-06-09     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n6ac3e967a0a5](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n6ac3e967a0a5)

AI領域の変化をめぐる対談の第2回。AIと人間の協働、組織への影響、倫理的課題などを深掘りする。HIとAIの役割分担についての実践的な知見と議論が展開される。

### 035. 〔対談〕システム思考とAIシステム 1・2・3

---

作成日：2025-06-10     ♥ 5

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n4d40255a14b8](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n4d40255a14b8)

システム思考の観点からAIシステムの1・2・3（知覚・推論・行動）を対談形式で論じる。システム設計における人間とAIの相互作用を分析し、未来のシステムアーキテクチャの方向性を探る。

### 036. プラグマティズムとは？

---

作成日：2025-06-11     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n0da9890f40d8](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n0da9890f40d8)

哲学的立場としてのプラグマティズム（パース・ジェームズ・デューイ）を解説。真理を実践的有用性で捉える思想が思考の技法にどう貢献するかを論じる。知識を行動に接続する哲学として再評価する。

### 037. 発達の本質：解像度・真摯さ・尊厳

---

作成日：2025-06-12     ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n250790eaf2c8](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n250790eaf2c8)

個人の発達を「解像度（認識の細かさ）」、「真摯さ（向き合う誠実さ）」、「尊厳（自己尊重）」の三軸で捉える独自モデルを提示。人財育成や自己成長の本質を実践的観点から論じる重要な論考。

### 038. 生命・進化と計算理論の系譜

---

作成日：2025-06-13     ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nb39f2055353e](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nb39f2055353e)

35億年の生命進化と計算理論（チューリング・チャーチ等）の系譜を接続する知的冒険。自律的システム進化の原理を生命科学と計算論から導出し、現代のAI・組織論への示唆を探る。

## 039. 実世界埋込型 抽象山モデル

---

作成日：2025-06-14     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nb61684c10bed](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nb61684c10bed)

実世界に埋め込まれた知識の抽象階層を「抽象山」モデルとして可視化・定式化する。具体的現実から高度な抽象概念へと登る知的プロセスをモデル化し、思考の技法の方法論的基盤の一つを形成する。

## 040. 知を構成していくということ

---

作成日：2025-06-15     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n38467b1d6ebb](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n38467b1d6ebb)

知識は与えられるものではなく、自ら構成・組み立てていくものであるという構成主義的認識論を論じる。探求・学習・創造の本質として「知の構成」を位置づけ、知働化の核心的活動として提示する。

## 041. 実行可能知識と $\wedge$ V モデル

---

作成日：2025-06-16     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n5a99c0d76792](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n5a99c0d76792)

従来のV字モデルを拡張した独自の「 $\wedge$ Vモデル」を解説。システム開発において「実行可能知識」を中心に置くことで、要件定義からシステム化まで知識主導で進める方法論を提示する。

## 042. IT-CMF

---

作成日：2025-06-17     ♥ 0

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n432f1b3db371](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n432f1b3db371)

IT能力成熟度フレームワーク（IT-CMF）を紹介・解説する。組織のIT活用能力を体系的に評価・向上させる枠組みを概説し、知働化の組織的実践との接点を論じる。IT組織のマネジメント改善の基準として活用できる。

## 043. 予測：科学的アプローチ

---

作成日：2025-06-18     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n8720a663d73c](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n8720a663d73c)

不確実性の高い現代において「予測」をどう扱うべきかを科学的・哲学的観点から論じる。統計的予測の限界と認知バイアスを指摘し、確率論的思考と思考の技法を組み合わせた予測の在り方を提案する。

## 044. 超マシンという抽象化

---

作成日：2025-06-19     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n18aac7e8b3c4](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n18aac7e8b3c4)

チューリングマシンを超えた「超マシン」という概念的抽象化を論じる。計算の限界を探りつつ、思考の技法における抽象化の究極形を考察する。理論計算機科学と哲学を架橋する独自の概念提示。

## 045. 知働化辞典

---

作成日：2025-06-20     ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n58523081b375](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n58523081b375)

思考の技法を支える諸概念を辞典形式で整理したインデックス作品。知働化に関する主要用語の定義・解説へのリンクを提供し、体系的な知識の参照を可能にする。全作品を横断する概念地図として機能する。

## 046. 知働化探求史

---

作成日：2025-06-21     ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nf9700fbfc4b3](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nf9700fbfc4b3)

思考の技法を支える諸学問・著作・探求の系譜を歴史的に整理したインデックス作品。哲学・システム論・AI・デザイン等の源流を辿り、知働化という知的探求の全体像を提示する参照文書。

## 047. 人財の二極化

---

作成日：2025-06-22   ♥ 0

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n3b2e95dfe869](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n3b2e95dfe869)

AI時代において人財がアーキテクト的な創造的人材と技能的人材に二極化していく現象を分析。組織はこの二極をどう連携・組織化するかが競争力の鍵だと論じる。人材戦略に根本的な問いを投げかける。

## 048. アーキテクトに要請される能力

---

作成日：2025-06-23   ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nd1291ee163b2](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nd1291ee163b2)

ソフトウェア・システム・組織のアーキテクト（設計者）に求められる能力・資質・スキルセットを論じる。創造的思考・システムの思考・コミュニケーション能力の統合が不可欠だと示す実践的論考。

## 049. 言語ゲームがもたらすパラダイムシフト

---

作成日：2025-06-24   ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n3c5047391680](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n3c5047391680)

ヴィトゲンシュタインの「言語ゲーム」概念がもたらした認識論・言語分析・デザイン思考へのパラダイムシフトを解説。言語は現実を記述するだけでなく現実を構成するという転換を論じ、思考の技法への応用を示す。

## 050. 目的策定 = 存在意義のデザイン

---

作成日：2025-06-25   ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n94c8b5fed7c6](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n94c8b5fed7c6)

組織・製品・個人の「目的策定」を存在意義（パーパス）のデザイン行為として論じる。目標管理や曼荼羅図などのツールを参照しつつ、正しい目的設定がイノベーションの出発点であることを示す。

## 051. 思考の技法：HIとAIのための新実在論

---

作成日：2025-06-26   ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n5d956db3dc96](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n5d956db3dc96)

マルクス・ガブリエルの新実在論を基盤に、人間知能（HI）とAIの両方に適した思考の技法の哲学的基盤を論じる。「哲学は考えることについての病を治療する」というガブリエルの言葉を軸に展開する。

## 052. 理性・知性・感性の限界

---

作成日：2025-06-27   ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n766e5a55ea44](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n766e5a55ea44)

哲学者・高橋昌一郎の三部作「理性・知性・感性の限界」を解説・論評する。人間の認知能力の限界を哲学的に捉え、思考の技法が示す「限界の自覚」の重要性を論じる。科学哲学的な考察。

## 053. 用語「アーキテクチャ」の再定義

---

作成日：2025-06-28   ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nb44939fcb380](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nb44939fcb380)

「アーキテクチャ」という用語の語源（建築家）から情報システム・組織設計への転用を辿り、知働化の文脈での再定義を試みる。ガウディ・安藤忠雄らの建築思想を参照しつつ、概念の本質を探る。

## 054. システム：オープン/クローズ 自律/他律

---

作成日：2025-06-29   ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nffc808178501](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nffc808178501)

システムのオープン/クローズ性と自律/他律性の概念を明確に定義する。アラビアンナイトの「開けご

ま」を比喻に使いながら、システム設計の根本的な軸を整理する。組織・ソフトウェア設計の基礎概念。

## 055. セル組織：自律的チームの様相

---

作成日：2025-06-30   ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/naf9beca1a043](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/naf9beca1a043)

自律的な小集団「セル」が連携して大きな組織を形成するセル組織論の概念と特徴を論じる。生命の細胞からアナロジーを得た組織モデルの本質と実践上の課題を解説。知働化組織の基本単位を提示。

## 056. オートポイエーシス・システムの定式化

---

作成日：2025-07-01   ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n3e9c67063648](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n3e9c67063648)

マトゥラーナ・ヴァレラが提唱したオートポイエーシス（自己産出システム）理論を数式的・論理的に定式化する試み。生命システムの自律性・自己維持の原理を形式化し、組織・ソフトウェアへの応用を探る。

## 057. 対談：ソフトウェア・アーキテクト

---

作成日：2025-07-02   ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/na518065671dd](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/na518065671dd)

ソフトウェア・アーキテクトの役割・能力・キャリアについて専門家と対談。アーキテクトがビジネスと技術を橋渡しし、システム全体の設計思想を体現する存在であることを議論する。実践的なキャリア論も展開。

## 058. 表紙が示す知働化作品群の全体像

---

作成日：2025-07-03   ♥ 7

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n8b69dbca055d](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n8b69dbca055d)

著作群の表紙デザインが示す知働化作品全体の構造と世界観を解説する。個々の作品がどのように有機的につながり全体像を形成するかを俯瞰する。知働化探求の体系的地図として機能する重要作品。

## 059. 思考停止の技法

---

作成日：2025-07-04   ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nf10c8a4bf0bc](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nf10c8a4bf0bc)

逆説的な「思考停止の技法」を論じる。適切なタイミングで思考を止め・切り替える能力こそが高度な知的活動を支えることを示す。過剰思考や情報過多の時代における思考のリズム管理法を提案。

## 060. 対談：出版における昭和の幻想からの脱却

---

作成日：2025-07-05   ♥ 6

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nd0990fc75009](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nd0990fc75009)

出版・執筆における旧来の「昭和的」価値観・慣行からの脱却を対談形式で論じる。デジタル・AI時代における知識発信の新しい形を模索する。noteでの執筆活動の意義と可能性を実践的に語る。

## 061. Symposium2025 への参加要領

---

作成日：2025-07-06   ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n5d0cd4e325a1](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n5d0cd4e325a1)

知働化をテーマとする Symposium2025 の参加方法・プログラム概要を案内する実務的な告知記事。知的探求コミュニティ形成の場としてのシンポジウムの意義と内容を紹介する。

## 062. ベルタランフィの一般システム論

---

作成日：2025-07-07   ♥ 4

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n3569f5e552ef](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n3569f5e552ef)

カール・フォン・ベルタランフィが提唱した一般システム論を解説する。あらゆる現象をシステムとして統一的に捉える思想が思考の技法のシステム論に与えた影響を論じる。現代システム思考の源流を解説。

## 063. ハイグラフによる図式の定式化

---

作成日 : 2025-07-08     ♥ 2

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nc9ec8db607a6](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nc9ec8db607a6)

「ハイグラフ」という独自の図式表現法を定式化する技術的論考。複雑な概念・関係性・システム構造を視覚的・形式的に表現するための方法論を提示。知働化における図式言語の理論的基盤を構築する。

## 064. ソフトウェア・セル組織論

---

作成日 : 2025-07-09     ♥ 2

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n31c9a853dce6](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n31c9a853dce6)

ソフトウェア開発におけるセル組織の適用可能性を論じる。自律的な小チームがモジュール式に連携する組織設計と、ソフトウェアのセルアーキテクチャの関係を探る。アジャイル開発の次の段階を提示。

## 065. 組織知能：知の三位一体説

---

作成日 : 2025-07-10     ♥ 4

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/ne015c297417d](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/ne015c297417d)

組織の知性（知能）を「暗黙知・形式知・実践知」の三位一体として捉える独自モデルを提示する。個人の知と組織の知が統合され、組織全体として知的に機能するメカニズムを論じる。知働化組織論の核心。

## 066. 変化対応から適応進化へ

---

作成日 : 2025-07-11     ♥ 3

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n325181484944](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n325181484944)

組織・システムが単に変化に「対応」するのではなく、自律的に「適応・進化」する能力を獲得することの重要性を論じる。ダーウィン進化論のアナロジーから組織進化の原理を導出し実践的示唆を提示。

## 067. 普遍的なモジュール概念

---

作成日 : 2025-07-12     ♥ 1

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/naded0c7ee088](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/naded0c7ee088)

ソフトウェア・組織・知識体系に共通する「モジュール」概念の普遍性を論じる。分割・組み合わせ可能な単位としてのモジュールが複雑性管理・再利用・進化において果たす役割を整理する。

## 068. ミームによるディスコース醸成

---

作成日 : 2025-07-13     ♥ 3

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nf43c31d174d8](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nf43c31d174d8)

ドーキンスのミーム概念を活用して、組織・社会における言説（ディスコース）がどのように伝播・進化するかを論じる。知的コミュニティでの概念・価値観の醸成メカニズムを探る実践的考察。

## 069. 作品群の一貫性保持

---

作成日 : 2025-07-14     ♥ 2

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/ne36cfe08fdcc](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/ne36cfe08fdcc)

多数の作品にわたる思想的・一貫性をどのように維持するかについての方法論的考察。用語の統一・概念の整合性・参照関係の管理など、知識体系の構築における実践的なノウハウを共有する。

## 070. ドーキンスと進化論

---

作成日：2025-07-15     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n3f5d362b5f92](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n3f5d362b5f92)

リチャード・ドーキンスの「利己的な遺伝子」「ミーム」理論を紹介・解説する。進化論的視点から文化・知識・組織の進化を捉える思想が思考の技法に与える示唆を論じる。

## 071. AI との対話

---

作成日：2025-07-16     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n4473b1487e59](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n4473b1487e59)

AI との対話を通じた知的探求の可能性と限界を論じる。生成 AI を思考の道具として使いこなすための方法論を実践的に提示。HI と AI の協働が新たな知識創造をもたらすことを示す具体的考察。

## 072. デザインにおける概念創造

---

作成日：2025-07-17     ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nb835d5988718](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nb835d5988718)

デザインの本質を「概念創造」として捉える視点を論じる。形や機能を超えた意味の創造こそがデザインの核心であり、思考の技法と深く結びつくことを示す。イノベーションとデザインの接点を探る。

## 073. 〔対談〕アジャイルプロセス

---

作成日：2025-07-18     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/ndffe5b7af362](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/ndffe5b7af362)

アジャイルプロセスの専門家との対談。アジャイル開発の本質・現状・限界を議論し、知働化の視点からの次世代開発プロセスの方向性を探る。ソフトウェア開発の実践的知見が凝縮された対話。

## 074. Symposium2025 トラック企画

---

作成日：2025-07-19     ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nff8638bd6178](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nff8638bd6178)

Symposium2025 における「HI と AI」トラックの企画詳細を解説する。人間知能と AI の協働をテーマに、理論・実践・倫理の観点から議論する場の設計を紹介する。知的コミュニティ形成の実践記録。

## 075. 思考の技法 / セル組織に関する QA

---

作成日：2025-07-20     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n706d71866595](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n706d71866595)

セル組織論についての Q&A 形式の解説。読者の疑問に答える形で、セル組織の設計・運用・課題に関する実践的な知識を整理する。理論と実践の橋渡しをする入門的かつ実用的な論考。

## 076. 『思考の技法』各章始めのエピグラフ

---

作成日：2025-07-21     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n94a588e273fb](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n94a588e273fb)

書籍『思考の技法』各章の冒頭に掲げたエピグラフ（引用格言）を公開・解説する。各章のテーマを象徴する言葉の選択意図を説明し、著者の思想的系譜と影響を受けた知識人を明かす貴重な記録。

## 077. 思考の技法 / セル組織論 FAQ（前半）

---

作成日：2025-07-22     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nf1e49d2b7b67](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nf1e49d2b7b67)

セル組織論に関するよくある質問への回答（前半）。組織論の基本的な疑問から実践上の課題まで幅広く解説する。セル組織を導入・運用する際の具体的なガイダンスとなる実践的内容。

## 078. 思考の技法 / セル組織論 FAQ (後半)

---

作成日：2025-07-23     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nf799035d2e1b](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nf799035d2e1b)

セル組織論 FAQ の後半。より高度・応用的な質問への回答を収録する。セル組織の発展段階・評価方法・変革マネジメントなど実践的テーマを扱い、組織変革の実務家に有用な知見を提供する。

## 079. ソフトウェアセルの起源

---

作成日：2025-07-24     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n2dc78b56b391](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n2dc78b56b391)

ソフトウェアシステムをセルの集合として捉える「ソフトウェアセル」概念の起源と理論的背景を論じる。生命のセルアナロジーからシステムアーキテクチャへの応用の歴史と可能性を探る。

## 080. 本質的困難への学際的アプローチ

---

作成日：2025-07-25     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n89de2e338de5](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n89de2e338de5)

ソフトウェア・組織・思考の「本質的困難」に対して、哲学・認知科学・システム論・進化論など複数の学問分野を横断して取り組む学際的アプローチの必要性と方法を論じる。

## 081. 死の行進からの脱却

---

作成日：2025-07-26     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n861e3979bfeb](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n861e3979bfeb)

ソフトウェア開発における「死の行進」（プロジェクト崩壊）の構造的原因を分析し、知働化・セル組織・AVモデルによる脱却策を提示する。人月の神話の問題を現代的アプローチで解決する重要論考。

## 082. オートポイエーシス論の本質的困難

---

作成日：2025-07-27     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n4f993f8c6a97](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n4f993f8c6a97)

オートポイエーシス理論（自己産出システム）の本質的な難しさ・限界を正面から論じる。理論の洗練度と実用性の間の緊張を分析し、知働化への応用における課題を明確にする。

## 083. 人は言語によって思考するのか？

---

作成日：2025-07-28     ♥ 6

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n69f23f6ea6f7](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n69f23f6ea6f7)

「人間は言語によって思考するのか、それとも言語に先立つ思考があるのか」という古典的哲学問題を現代的に問い直す。言語・思考・AI の関係を探り、思考の技法の言語観を深める重要な考察。

## 084. 『思考の技法の歩き方』へ向けて

---

作成日：2025-07-29     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/na280c372a818](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/na280c372a818)

『思考の技法』をより身近に実践するためのガイドブック構想を示す。理論から実践へのブリッジとして、読者が自分の問題解決に活用できる「歩き方」を提案する方向性を示す論考。

## 085. 仏教の御利益

---

作成日：2025-07-30     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nae587fcbdd2a](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nae587fcbdd2a)

仏教思想の「利益（りやく）」という概念を現代的・実践的に再解釈する。執着の放棄・無常の受容・慈悲の実践が思考と組織のあり方に与える示唆を探る。東洋哲学と知働化の接点を論じる。

## 086. 旧序文より

---

作成日：2025-07-31   ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n733b7dac4648](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n733b7dac4648)

著作の旧版序文を公開・紹介する記録的論考。思考の技法の出発点・問題意識・執筆動機を著者自らが語る。作品全体の哲学的・実践的背景を理解するための重要な一次資料。

## 087. 旧序文より 続き

---

作成日：2025-08-01   ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/ne4ecd4e45d87](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/ne4ecd4e45d87)

旧版序文の続きを公開する。知識主導社会において思考の技法がどのような社会的必要性に応えようとしているかを詳述する。昨日の安穩の延長に明日はないという著者の強い問題意識を示す。

## 088. 思考の技法 新訂版 の構想

---

作成日：2025-08-03   ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n46f1e4a9089d](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n46f1e4a9089d)

これまでのnote作品を統合した「思考の技法 新訂版」の構想を示す。旧版の課題を踏まえた新たな体系化の方針と、各章の概要・関連作品の整理を行う。本作品群の総括的な設計図となる重要論考。

## 089. 思考の技法 / 序

---

作成日：2025-08-07   ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n25bc7e7d2c1e](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n25bc7e7d2c1e)

書籍『思考の技法』の序文。知識主導社会における「思考すること」の重要性を説き、本書の目的・対象読者・構成を案内する。アーキテクトやアントレプレナーを主要読者として想定した知的宣言。

## 090. 思考の技法 / 第1章 思考の技法とは何か？

---

作成日：2025-08-08   ♥ 6

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n92ce7b899f28](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n92ce7b899f28)

人働説から知働説へのパラダイムシフトを軸に「思考の技法」の定義と目的を示す第1章。ソフトウェア学を基盤に、知識主導社会における知的活動の在り方を体系的に論じる重要な導入章。

## 091. 思考の技法 / 第2章 核心概念

---

作成日：2025-08-09   ♥ 9

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nbdbc53e58fed](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nbdbc53e58fed)

目的・システム・組織・技法という思考の技法の「核心概念」を解説する第2章。目的設定の重要性を特に強調し、正しい目的なしに成功はあり得ないという中心命題を展開する。全章を貫く概念の礎石。

## 092. 思考の技法 / 第3章 哲学

---

作成日：2025-08-11   ♥ 5

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n6ba38c447264](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n6ba38c447264)

なぜ哲学が思考の技法に必要なかを論じる第3章。ヴィトゲンシュタインからガブリエルまでの哲学的系譜を整理し、現代の知的活動における哲学の実践的価値を示す。理系・文系を超えた哲学の実用論。

## 093. 思考の技法 / 第4章 システム

---

作成日：2025-08-15   ♥ 5

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nbdd40e43dade](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nbdd40e43dade)

INCOSEのSEBoKなどを参照しつつ、システムの定義・分類・設計原理を論じる第4章。プロダクトシステム・サービスシステム・ソーシャルシステムを統合的に捉え、知働化システム論の体系を示す。

## 094. 思考の技法 / 第7章 トピックス(2) / 7.2 知働化 AI フレーム

---

作成日：2025-08-19     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n215da49b6fa5](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n215da49b6fa5)

AIシステムを知働化フレームで捉え直すトピックス章。システム開発における「問題領域」の重要性を強調し、AVモデルを発展させた知働化AIフレームの概念を提示する。AI時代の開発論の核心。

## 095. 思考の技法 / 第5章 組織と能力

---

作成日：2025-08-23     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n40e5351351db](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n40e5351351db)

組織の構造と人材の能力配置を論じる第5章。創造的人材とアーキテクトの連携が価値を生む組織設計の原理を解説する。HR戦略と組織アーキテクチャを統合的に捉える実践的論考。

## 096. 思考の技法 / 第6章 応用技法(1) / 6.1 三位一体モデル

---

作成日：2025-08-25     ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n23ae1db2d039](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n23ae1db2d039)

ペンローズの三世界論を応用した「三位一体モデル」を中心に、実践的思考技法の第1節を展開する。物理世界・メンタル世界・プラトンの世界の三層で知識と現実の関係を捉える独自フレームを提示。

## 097. 思考の技法 / 第6章 応用技法(2) / 6.2 ペンローズ法

---

作成日：2025-08-27     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n1d94f866ef63](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n1d94f866ef63)

ペンローズの三世界モデルを思考の技法として活用する「ペンローズ法」を解説する。数学的・論理的思考と直観の統合、意識と計算の関係を実践的思考法として定式化する。

## 098. 思考の技法 / 第6章 応用技法(3) / 6.3 AVモデル

---

作成日：2025-08-29     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n9acf24563c5f](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n9acf24563c5f)

著者独自のAVモデル（ラムダVモデル）を解説する節。従来のV字モデルを問題領域・利用者の認識変化まで拡張した開発プロセス論を展開する。知働化プロセスの中核的方法論を示す実践的論考。

## 099. 思考の技法 / 第6章 応用技法(4) / 6.4 超マシン

---

作成日：2025-08-30     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nc4172bd35ee6](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nc4172bd35ee6)

チューリングマシンを超える「超マシン」の概念を応用技法として展開する節。計算不可能な問題と人間の思考の役割を論じ、AIが超えられない壁と人間の知的優位性を示す。

## 100. 思考の技法 / 第6章 応用技法(5) / 6.5 オープンダイアログ

---

作成日：2025-08-31     ♥ 0

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/na67ca4778f0b](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/na67ca4778f0b)

オープンダイアログを組織・システムの知的コミュニケーション技法として応用する節。対話の質が組織知性を高めるメカニズムを論じ、実践的な対話設計のガイドラインを提示する。

## 101. 思考の技法 / 第6章 応用技法(6) / 6.6 思考停止の技法

---

作成日：2025-09-02     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n12fd603d7bc4](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n12fd603d7bc4)

「思考停止」を逆説的な技法として活用する方法を論じる節。適切な境界設定・思考の区切り・休息が創造的思考のサイクルに不可欠であることを示す。過剰思考を管理する実践的知恵を提供。

## 102. 思考の技法 / 第6章 応用技法(7) / 6.7 ディスコースとミーム

---

作成日：2025-09-04     ♥ 0

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n86143f15a64a](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n86143f15a64a)

ディスコース（言説・議論の場）とミーム（文化的自己複製子）を組み合わせた応用技法を論じる節。知識・概念・価値観が組織や社会にどのように伝播し根付くかを分析し実践的示唆を提供する。

## 103. 思考の技法 / 第7章 トピックス(3) / 7.3 ラディカル知働化プロセス

---

作成日：2025-09-06     ♥ 0

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n37887a428829](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n37887a428829)

「ラディカル（根本的）」な知働化プロセスを提唱するトピックス章。漸進的な改善ではなく根本的な変革を目指す知働化の実践論を展開する。組織・システムの本質的進化を促すアプローチを示す。

## 104. 思考の技法 / 第7章 トピックス(1) / 7.1 目的なきシステムの混迷

---

作成日：2025-09-07     ♥ 0

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n3c9c47fda00b](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n3c9c47fda00b)

目的が不明確なまま動き続けるシステム・組織が陥る混迷を分析するトピックス章。目的の喪失が意思決定の混乱・方向性の迷失をもたらす構造的問題を論じ、パーバードリブンの設計の重要性を示す。

## 105. 思考の技法 / 終章 執筆後記

---

作成日：2025-09-11     ♥ 4

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n67e7f7749705](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n67e7f7749705)

書籍『思考の技法』の執筆後記。著作の誕生経緯・込めた思い・読者への期待を著者が語る。次の探求への展望と、知働化社会実現に向けた著者のビジョンが凝縮された感謝と決意の記録。

## 106. Symposium2025 の意義

---

作成日：2025-09-19     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n1ffbdc6d6be3](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n1ffbdc6d6be3)

知働化をテーマとする Symposium2025 が持つ社会的・知的意義を論じる。HI と AI の共進化という時代の課題に向き合う知的コミュニティの必要性と、シンポジウムがその場となる意味を説明する。

## 107. 作品の後処理

---

作成日：2025-09-27     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n1a5971e8528b](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n1a5971e8528b)

note 作品の公開後に行う「後処理」の方法論を紹介する。インデクシング・相互参照・改訂・アーカイブなど、知識体系を持続的に管理するための実践的ノウハウを共有する。

## 108. Symposium2025 のトラック「HI と AI」

---

作成日：2025-10-28     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n9773b51e1fc5](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n9773b51e1fc5)

Symposium2025 における「HI と AI」トラックの実施概要と成果を報告する。人間知能と AI の協働に関する議論の記録と、シンポジウムを通じて得られた知見を整理・共有する。

## 109. 期待と現実とのギャップ

---

作成日：2025-11-05     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nfaf8a984c0a9](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nfaf8a984c0a9)

組織・プロジェクト・製品開発において「期待と現実のギャップ」が生まれる構造的メカニズムを分析する。認知バイアス・コミュニケーション不全・目的の曖昧さがギャップを生む原理を論じ対処法を提案する。

## 110. 人間知能の思考法

---

作成日：2025-12-16     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n9e970478fbeb](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n9e970478fbeb)

人間固有の思考法（HI）をAIと比較しつつ論じる。直観・類推・創造・感情という人間の認知特性が知識創造においていかに重要かを示す。AIと補完的に働く人間知能の役割を明確化する。

## 111. 偉人・賢人のフォロー

---

作成日：2025-12-22     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nc8d9149f100b](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nc8d9149f100b)

歴史上の偉人・賢人の思想をフォロー（追跡・学習）する実践を論じる。知的巨人の肩の上に立ちながら思考を深める方法として、偉人の著作・言葉との対話の重要性を示す。知的継承の実践論。

## 112. 情報ネットワーク社会のデザイン

---

作成日：2026-01-01     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nb2ad202f28b0](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nb2ad202f28b0)

情報ネットワーク社会の構造と設計原理を論じる。デジタルネットワークが生み出す価値・リスク・権力構造を分析し、人間中心・知識主導の社会デザインの方向性を提示する。

## 113. サールの社会存在論：社会的世界の制作

---

作成日：2026-01-02     ♥ 6

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n957275fe758c](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n957275fe758c)

哲学者ジョン・サールの社会存在論（Social Ontology）を解説する。「社会的事実」「制度的現実」「集合的志向性」など、社会がいかに構成されるかを論じ、思考の技法の社会論的基盤を示す。

## 114. オートポイエーシス論再考

---

作成日：2026-01-09     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/ne983203c7465](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/ne983203c7465)

マトゥラーナ・ヴァレラのオートポイエーシス論を再考する。自己産出・操作的閉鎖性・構造的カップリングなど核心概念を再整理し、知働化・組織論への応用可能性を新たな視点で探る。

## 115. AIのプラトン表現への収斂

---

作成日：2026-01-11     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nb685c0cfa778](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nb685c0cfa778)

AIが学習を通じてプラトンの「アイデア（普遍的形相）」のような抽象表現に収斂していく現象を論じる。深層学習における表現学習が哲学的な普遍概念に近づく可能性と含意を探る。

## 116. 並行プロセスモデルの体系

---

作成日：2026-01-19     ♥ 0

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n44c39c37d613](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n44c39c37d613)

複数のプロセスが同時並行で進行する「並行プロセスモデル」を体系化する。ソフトウェアの並行処理理論を組織・思考・社会のモデルに応用し、複雑系の動的挙動を捉える新たな枠組みを提示する。

## 117. シャノン情報理論の限界と複雑度メトリックス（前半）

---

作成日：2026-01-25     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n213b3efc86a4](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n213b3efc86a4)

クロード・シャノンの情報理論（エントロピー・通信モデル等）の基礎を解説し、その限界を指摘する前半。意味・文脈・複雑性を捉えられないシャノン情報量の問題を論じ、複雑度メトリックスの必要性を示す。

## 118. シヤノン情報理論の限界と複雑度メトリックス（後半）

---

作成日：2026-01-25     ♥ 3

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/neff522033f68](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/neff522033f68)

シヤノン情報理論を超える複雑度メトリックスの提案を展開する後半。アルゴリズム情報量・論理的深さ・オルゴール複雑度などの代替指標を検討し、思考の技法における情報観を豊かにする。

## 119. 4E 認知

---

作成日：2026-01-30     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nfe6e9452ae80](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nfe6e9452ae80)

4E 認知科学（Embodied・Embedded・Extended・Enactive）を解説する。認知は脳内だけでなく身体・環境・行為と不可分だという現代的認知観を紹介し、思考の技法への示唆を論じる。

## 120. 自律的システム進化による雇用ゼロ組織経営

---

作成日：2026-02-04     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n833aa5ed1ac3](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n833aa5ed1ac3)

生命進化の原理と計算理論を統合し、組織やシステムが自律的に進化していくための思考法を探求する。35億年の生命の歴史から学ぶ生存戦略を現代の組織経営に応用し「人月の神話」からの脱却を提案。

## 121. AI 時代に要請される人の能力

---

作成日：2026-02-13     ♥ 10

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/neb02cd2ed246](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/neb02cd2ed246)

AI 時代において人間に真に求められる能力・資質を論じる。HI と AI の役割分担を明確にし、創造性・判断力・意味形成など人間固有の能力を組織経営アーキテクチャの観点から提示する。

## 122. AI 資本主義の構造と射程

---

作成日：2026-03-05     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/ned9496c8bdae](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/ned9496c8bdae)

マルクスの資本主義論を出発点に、AI 時代の資本・所有・労働の関係を現代的に再考する。AI が生産手段の新たな主体となる社会の構造変化を分析し、人間の経済的位置を再定義する視座を提供する。

## 123. 『思考の技法 2.0』 へ向けて

---

作成日：2026-03-18     ♥ 2

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/ndee896a18568](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/ndee896a18568)

書籍『思考の技法』の次版（2.0）に向けた課題と新たなアプローチを整理する。読者からの反応を踏まえ、哲学の意義・AI との関係・実践的活用などの課題を提示し今後の探求方向を示す。

## 124. AI による限界費用ゼロ社会

---

作成日：2026-03-25     ♥ 0

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n6977fbce4e84](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n6977fbce4e84)

AI がもたらす「限界費用ゼロ社会」（コペルニクスの転回・ダーウィンの進化に並ぶパラダイムシフト）を論じる。産業構造・競争原理・価値創造の根本的变化を分析し、新時代の社会デザインへの示唆を提供する。

## 125. 思考の技法サイトの設計と実装

---

作成日：2026-03-31     ♥ 1

URL：[https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n7fcd1d214d72?from=notice](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n7fcd1d214d72?from=notice)

知働化の哲学と思考の技法を発信する知識基盤として chidouka-lab.com を構築。Claude Code と GitHub・Vercel を連携し、notebookLM も活用しながら、note 作品群を動的に更新・発展させるコミュニティプラットフォームの設計と実装を論じている。

---

## 126. ティール思想とアスケル思想の対比

---

作成日：2026-04-03 0

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/nf18fe4ad69e7](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/nf18fe4ad69e7)

ピーター・ティールとアマダ・アスケルの思想対比を通じ、「AIは人間の価値観の外にある力」vs「AIの価値観は設計可能であり設計する責任がある」という哲学的対立を考察。混迷する世界の中でAIテクノロジーの社会浸透の方向性を問う。

---

## 127. AIトークンエコノミー — 知働化サイトのコストモデル (AI-COCOMO) を事例として

---

作成日：2026-04-13 —

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/ne4028c50cfe9](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/ne4028c50cfe9)

COCOMO II を生成AI時代に拡張したコストモデル「AI-COCOMO」を提案・解説する。知働化サイト (chidouka-lab.com) の実装データに基づき、従来型開発・現状AI支援・AI最大委任の3シナリオでコストを試算。¥1,475K ¥326K ¥115K と段階的に圧縮されることを示す。AIへの委任が増すほど人間の役割は「ビジョン定義・ドメイン判断・品質承認」に集中し、コスト構造が「作るコスト」から「確認するコスト」へ転換することを論じる。ファンクションポイント・KLOC・スケールファクタ・コストドライバ・AI代替率・トークン単価・統合OH率 など、全パラメータを定義した理論モデルを提示。なお、本論考をもとにしたWebシミュレータを [chidouka-lab.com/AI-COCOMO/](https://chidouka-lab.com/AI-COCOMO/) で公開。

---

## 128. 組織・システムの構造計算

---

作成日：2026-04-21 1

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/ne5c487b3fad9](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/ne5c487b3fad9)

建築における「構造計算」の概念を、現代の複雑化したITシステムや組織の設計・運用に応用する強力なメタファについて考察しています。一律の法的強制力を持たないIT業界において、システムのアーキテクチャ、運用、品質、プロセスを担保するための多様な標準規格 (ISOやIEEEなど) の役割を概観しています。これらを踏まえ、複雑化するAI時代において、第三者視点からプロセスや構造の正しさを客観的に計測・評価し、信頼を構築する「構造計算経営」の重要性を提唱しています。

---

## 129. AI・哲学の知政学

---

作成日：2026-04-27 —

URL : [https://note.com/ichi\\_s\\_otsuki/n/n2631177010e4](https://note.com/ichi_s_otsuki/n/n2631177010e4)

著名な思想家・研究者の哲学を、存在論的アプローチと認識論的アプローチの2軸で4象限にマッピングし、AIの立ち位置と人類の針路を整理する。知識やアルゴリズムの支配権闘争を「知政学」と位置づけ、私たちが未来を航海するための羅針盤として「知能の地図」を提示する論考。

---